

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

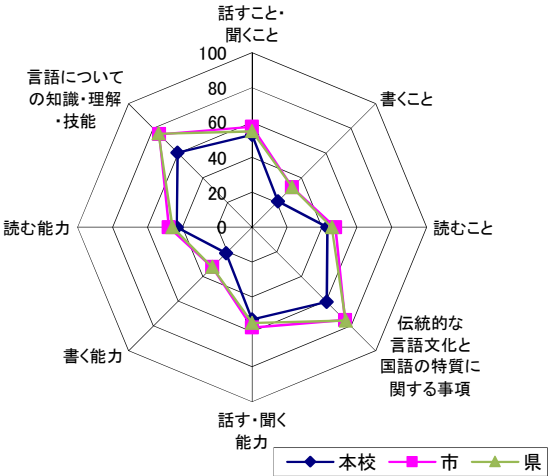
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	52.9	57.5	54.9
	書くこと	21.0	32.3	32.3
	読むこと	43.1	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.4	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	52.9	57.5	54.9
	書く能力	21.0	32.3	32.3
	読む能力	43.1	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	60.4	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

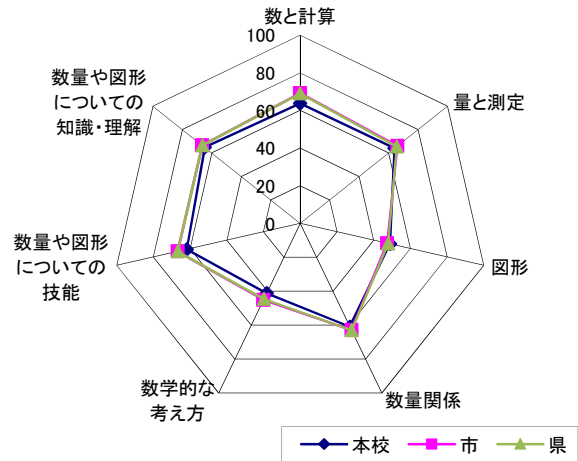
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・領域全体の平均正答率は市平均と比較すると4.6ポイント低く、県平均と比べると2ポイント低い。 ●「話の中心に気をつけて聞き、自分の意見を述べる」の正答率は19.6%で、県平均と比較して7ポイント低い。	・教育活動全般において自分の考えを表現する機会を多く設ける。 ・学習の形態を工夫し、少人数で話したり聞いたりする活動を取り入れる。 ・話し合い活動の際、自分の考えを一度整理してから発言できるよう、自分の考えをノートに書く活動を設ける。
書くこと	・領域全体の平均正答率は市や県の平均と比較すると11.3ポイント低い。 ●「メモを基に報告レポートを記述する内容を考えて書く」の正答率は13.0%で、県平均と比べて26.8ポイント低い。 ●「メモや友達の意見を基に、報告レポートのまとめを書く」の正答率は0%で県平均と比べて6.3ポイント低い。	・同じ内容について書かれている形式の違う文章(メモ、報告書、文章等)を複数読み比べて、書かれている内容を整理し、自分の考えを書くような活動を多く取り入れる。 ・文字数を限定して自分の意見をまとめて書く活動を取り入れる。
読むこと	・領域全体の平均正答率は市平均と比較して4.6ポイント低く、県平均と比較して2.6ポイント低い。 ●「段落相互の関係を捉えて読む」の正答率は37.0%で、県平均と比較して5.5ポイント低い。 ●「文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う」の正答率は34.8%で、県平均と比較して5.5ポイント低い。	・国語の授業において、説明文で、段落相互の関係を捉えて読む活動を重点的に取り入れる。 ・文章の中から、大事な言葉を見つけ、それらをつなぎ合わせて文章にする活動を多く取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・領域全体の平均正答率は市平均と比較して14.9ポイント低く、県の平均と比較して15.4ポイント低い。 ●漢字の読みは、正答率79.7%で、県平均と比較して6.6ポイント低く、漢字の書きは、正答率67.4%で、県平均と比較して、9.4ポイント低い。 ●国語辞典の使い方は、正答率39.1%で県平均と比較して35.5ポイント低く、かぎ(「」)の使い方の正答率は30.4%で県平均と比較して、29.4ポイント低く、主語述語は、正答率54.3%で県平均と比較して20.6ポイント低い。以上のように、文法に関する事項が県平均と比較してかなり正答率が低い。	・漢字に関しては、今までの漢字の復習を行い、定着していないものに関しては、反復練習を取り入れる。また、文章を書く活動で、既習の漢字をしっかりと使っているか丁寧に添削を行い、定着を図る。 ・日記や感想文を書く活動などで、意図的に会話文を取り入れて書くように指導し、「」の使い方の定着を図る。それとともに主語や述語の整った文章を書けるようにする。 ・国語辞典を身近に置き、初めて出会う言葉やわからない言葉をすぐに調べる習慣を身に付け、国語辞典の使い方の定着を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.8	69.2	69.1
	量と測定	64.1	66.1	65.6
	図形	48.9	47.4	48.0
	数量関係	60.9	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	41.1	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	61.8	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	64.9	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

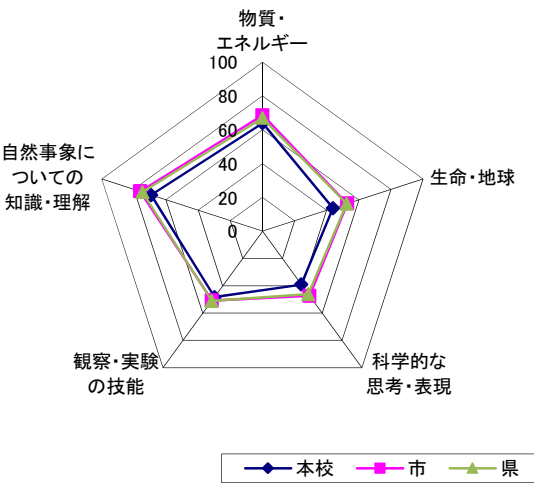
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると5.4ポイント、県平均と比較すると5.3ポイント低い。 ○3位数+2位数や4位数-4位数の計算の正答率は75ポイント以上で、よくできている。 ●整数-小数の計算の正答率は60.9ポイントで、県平均と比較すると19.0ポイント低い。また、合計が3000円になる乗り物の組み合わせを求める短答式設問の正答率が17.4ポイントで、県平均と比較しても11.8ポイント低い。	・計算の処理を適切に行うことができるようにするだけでなく、なぜそのような処理の仕方になるのかを児童自らが考え、話し合いなどを通して解決していく場面などを設ける。
量と測定	・領域全体の平均正答率は、市や県の平均と比較するとほぼ同じ正答率である。 ○算数の教科書1さつのおよその重さの短答式設問の正答率は69.6ポイントで、県平均と比べて9.2ポイント高い。 ●分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する短答式設問の正答率は50.0ポイントで、市や県の正答率と比べて、それぞれ7.1ポイント、6.8ポイントほど下回っている。	・時間を決められた単位に換算することが、全体的に定着できるよう、問題に繰り返し取り組ませ、時間に対するイメージを身に付けられるようにする。
図形	・領域全体の平均正答率は、市や県の平均と比較するとほぼ同じ正答率である。 ○1辺5cmの正三角形を1cm間隔ドット上に作図する問題の正答率は73.9ポイントで、市や県の平均正答率と比べてそれぞれ11.3ポイント、8.2ポイントほど上回っている。 ●箱に入った同じ大きさ4個のボールから半径を求める選択式設問の正答率が50.0ポイントであり、市や県の正答率と比べてそれぞれ6.8ポイント、7.1ポイントほど下回っている。	・文章問題等の活用的な問題に対しては、問題文を正確に把握する必要があるため、日頃より問題の内容を正確に読み取ることで、不注意による間違いを極力減らすことができるようにする。
数量関係	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると2.0ポイント、県平均と比較すると2.2ポイント低い。 ○未知の数量を□として数量関係を線分図に表す」選択式設問の正答率が93.5ポイントで、県平均の正答率と比較しても10.8ポイント高い。 ●領域での正答率が58.0ポイントと低く、市や県の平均に比べてもそれぞれ8.9ポイント、9.4ポイント低い。特に、表や棒グラフからわかる正しい内容を選ぶ選択式設問の正答率が、県平均と比較して8.8ポイント低い。	・図や表、グラフなどを使った問題を意図的に授業に取り入れ、様々な資料から必要な情報を読み取って答えを導き出す力の育成を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.9	68.6	66.9
	生命・地球	43.9	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	39.1	47.4	46.2
	観察・実験の技能	48.3	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	69.3	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・領域の正答率は63.9%で、市平均よりも4.7ポイント低く、県平均よりも3ポイント低い。 ○「輪ゴムの伸びと車の走る距離の関係」については正答率が60.9%で市平均よりも4.1ポイント高い。 ●「回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方」に関する設問では正答率が15.2%で、市平均よりも16.8ポイント低く、県平均よりも16.5ポイント低い。	・「回路を作る際の導線の安全なつなぎ方」に関する設問では、4層分析では大きな差は見られないが、全体的に正答率が低いことから、全体指導や個別指導で再確認をしていく。また、プリント等で繰り返し復習をしていく。 ・児童の実態から実験に対しては前向きな取り組みが見られるので、実験の手順を踏まえた上で、明確な目的を持って実験に取り組めるようにしていく。また、思考の過程が段階的につながるようふりかえりの内容を工夫していく。
生命・地球	・領域の正答率は43.9%で、市平均よりも8.9ポイント低く、県平均よりも8.5ポイント低い。 ○虫眼鏡や方位磁針、温度計などの観察・実験の器具の適切な扱いについては、どの設問も市の平均正答率と同程度である。 ●「昆虫の体の名称に関する設問」と「植物の成長の順序に関する設問」では、市平均よりもそれぞれ26.3ポイントと25.2ポイント低い。また、県平均よりもそれぞれ25.4ポイントと25.0ポイント低い。	・「昆虫の体のつくりのうち、腹の部分の名称がわかる」設問については、A-D層の差が大きいことから、該当児童に対して復習プリント等を用意し、復習に取り組ませていく。 ・「植物の成長する順序がわかる」設問では、A-D層の差は大きいが全体としての正答率が低いことから、観察を丁寧に行うことや復習プリントなどを用意して、全体指導に取り組んでいく。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合は87.0%と8割を超えており、また「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に対しても、肯定的に回答した児童の割合が、市の平均を上回っており、学校課題であるICTを活用した学び合いの活動を多く取り入れた成果が現れ、発言しやすい環境が整ってきている。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」と回答した児童の割合は89.1%と9割近くになっており、友達と良さを認め合う活動などを意図的に多く取り入れている結果が出たものと思われる。

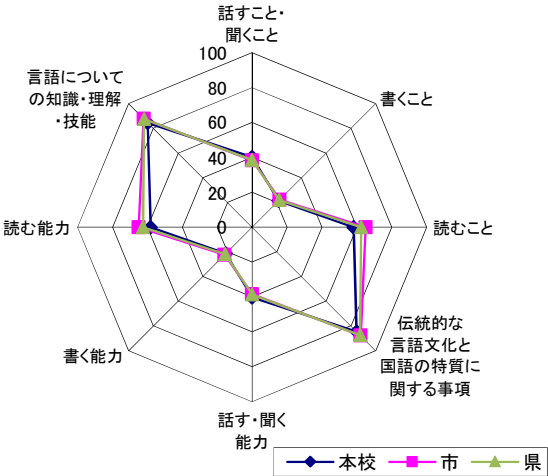
●「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は、95.7%で市の平均とほぼ同程度であるが、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」に対しては47.8%と5割を下回る結果となっており、市の平均よりも19.3ポイント低い。また「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合は、43.5%で、市の平均と比べて18.4ポイント低く学校と塾の宿題が中心で、自主的な学習習慣が十分に身に付いていない様子がうかがえる。今後は、宿題の量や質を吟味しつつさらに家庭と連携を図りながら、自主的に家庭学習に取り組めるよう指導すると同時に、自分の将来のために必要な力を意識させ、目的意識を持って家庭学習に取り組めるようにしていきたい。

●「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」と回答した児童の割合は65.2%と市の平均と比べて12.8ポイント低い。また「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答した児童の割合は73.9%と7割を超えており、児童が自分の考えを文章にまとめて表現することに苦手意識が強く、学習内容を文章で記録しておく習慣も十分に身に付いていない様子がうかがえる。今後は視写や一行日記など文字を書く機会を多く取り入れ、書くことに慣れさせるとともに、各活動の際には文例を示したりキーワードを掲示したりするなど指導を工夫して苦手意識の軽減に努めたい。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.2	38.3	38.5
	書くこと	21.4	22.3	21.9
	読むこと	58.1	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	84.6	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	40.2	38.3	38.5
	書く能力	21.4	22.3	21.9
	読む能力	58.1	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	84.6	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

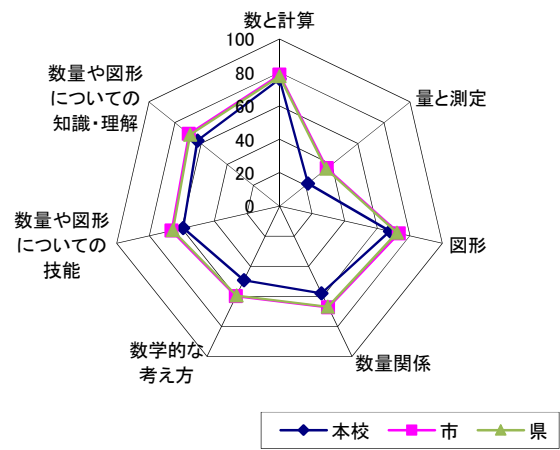
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・領域の平均正答率は40.2%で市や県平均と比較してそれぞれ1.9ポイント1.7ポイント高くなっている。 ○「考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す」問題では、市の平均を8.5ポイント、県の平均を7.7ポイント上回っている。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解して進行する」では、市や県平均と比較して6ポイント、7.2ポイント正答率が低い。	・教育活動全般において、自分の考えを表現する機会を多く取り入れる。 ・小グループ・クラス全体等、形態を工夫し、話し合い活動を積極的に取り入れる。また、話し合いの仕方を示し、役割を意識しながら意見をまとめていけるような活動を設ける。 ・話し合い活動を行った後、話し合った内容が司会の進行に沿っていたかどうか振り返りの時間を設ける。
書くこと	・領域の平均正答率は21.4%で、市や県平均と比較して0.5ポイント、0.9ポイントとわずかに低い。 ○「メモや友達の意見を基に、リーフレットのまとめを書く」問題では、市や県平均よりも1.3ポイント、0.9ポイント上回った。 ●「メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れる」問題での正答率は2.6%で、情報を活用し記述する問題に課題が見られる。	・教育活動全般において、自分の考えを表現する機会を多く取り入れる。 ・小グループ・クラス全体等、形態を工夫し、話し合い活動を積極的に取り入れる。また、話し合いの仕方を示し、役割を意識しながら意見をまとめていけるような活動を設ける。 ・話し合い活動を行った後、話し合った内容が司会の進行に沿っていたかどうか振り返りの時間を設ける。
読むこと	・領域の平均正答率は58.1%で、市や県平均と比較して4.4ポイント、6.9ポイント低い。 ○「中心となる語や文に注目して小見出しを付ける」問題の平均正答率は92.3%で、市や県平均を上回った。昨年からの指導の成果だと考えられる。 ●「書くこととすることの中心を明確にして書く」や「文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う」問題の平均正答率は25.6%、33.3%で、文章を読んで大事なことを落とさずに読むことに課題が見られる。	・内容を整理したり文字数を制限したりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので、国語の授業などで要約したり、条件を付けて作文を書く練習をしていく。 ・どの授業でも、学習活動の中で自ら考えて文章を書く機会を増やす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・領域の平均正答率は84.6%で、市や県平均と比較して2.9ポイント、3.2ポイント下回っている。 ○接続詞の使い方に関しては良くできており、市や県平均を上回っている。 ●漢字の読み書きについては、昨年からの取り組みにより80%以上の正答率であるが、漢字辞典の使い方と修飾と被修飾との関係の正答率は約60%で課題が見られる。	・宿題や自主学習で、日常的に繰り返し漢字の練習を行い、定着させるようにする。文章を書く活動を通して、既習の漢字を使っているか丁寧に添削を行い、より多くの漢字や熟語にふれるようにする。 ・漢字辞典や国語辞典を身近に置き、分からない言葉を辞書で調べる習慣を身に付けさせる。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.1	78.6	77.7
	量と測定	21.8	36.3	35.7
	図形	67.9	73.3	72.1
	数量関係	58.0	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	49.2	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	59.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	62.8	69.4	68.5



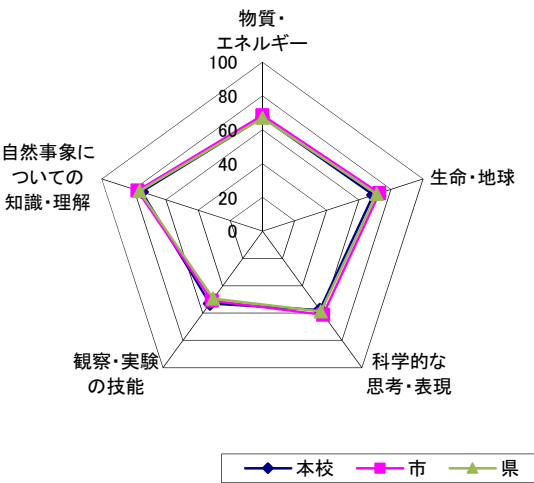
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると2.5ポイント、県平均と比較すると1.6ポイント低い。 ○3位数×2位数や3位数÷2位数の計算の正答率は約75ポイント、小数÷2位数の計算の正答率は、約80ポイントで、よくできている。 ●帯分数－真分数の計算の正答率は61.5ポイント、四捨五入して2桁の概数を選ぶ選択式設問の正答率は74.4ポイントで、市や県の正答率から約11ポイントほど下回っている。	・計算の処理を適切に行うことができるようにするだけではなく、なぜそのような処理の仕方になるのかを児童自らが考え、話し合いなどを通して解決していく場面などを設ける。 ・概数に関する問題に繰り返し取り組みませ、概数に対するイメージを身に付けられるようにする。
量と測定	・領域での正答率が21.8ポイントと低く、市の平均や県の平均に比べてもそれぞれ14.5ポイント、13.9ポイント低い。 ●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する記述式設問の正答率が5.1ポイントと低く、課題解決の説明をすることについて課題が見られる。また、およその面積を推測し選ぶ問題の正答率も23.1ポイントと低い。	・分度器を利用する問題や面積に関する問題に繰り返し取り組みませ、角の大きさに対するイメージを身に付けさせるようにする。 ・自分の考えや、答えの求め方をを文章に表して説明する機会を多く設け、考え方を言語化できるようにする。
図形	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると5.4ポイント、県平均と比較すると4.2ポイント低い。 ○立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ選択式設問の正答率が92.8ポイントと高い。 ●与えられた2辺の続きから、平行四辺形を完成させる記述式設問では、正答率が43.6ポイントと低く、市や県の平均に比べてもそれぞれ16.2ポイント、15.1ポイントほど下回っている。	・図形の特徴を言葉では理解していても、実際の作図の際に生かすことができない様子が見られるので、作図の練習を多く取り入れ、操作を通して図形の特徴との結び付きを意識させる。また、コンパスや分度器の扱い方を含めた技能の習得を図る。
数量関係	・領域全体での正答率が58.0ポイントと低く、市の平均や県の平均に比べてもそれぞれ8.9ポイント、9.4ポイント低い。 ●折れ線グラフから下がり方の一番大きい部分を答える記述式設問の正答率が38.5ポイントで、県平均と比較しても20.3ポイントほど下回っている。	・図や表、グラフなどを使った問題を意図的に授業に取り入れ、様々な資料から必要な情報を読み取って答えを導き出す力の育成を図る。 ・理科や社会の時間など、児童自らがグラフの特徴を読み取る作業を積極的に取り入れる。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.3	68.6	67.0
	生命・地球	69.0	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	57.7	61.2	58.8
	観察・実験の技能	53.0	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	75.2	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると1.3ポイント低く、県平均と比較すると0.3ポイント高い。 ○「物と重さ」に関する設問の平均正答率は100.0%で、市平均と比較すると10.5ポイント高く、県平均と比較すると11.7ポイント高い。 ●「空気と水の性質」に関する設問の平均正答率は74.4%で、市平均と比較すると4.3ポイント低く、県平均と比較すると3.5ポイント低い。中でも「閉じ込めた空気を圧す際の体積と手応えの変化が分かる」かどうかを問う設問の正答率が64.1%で、市平均と比較すると19.6ポイント低く、県平均と比較すると19.4ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・左記の「閉じ込めた空気を圧す際の体積と手応えの変化が分かる」かどうかを問う設問に関してはA-B層の差が大きいため、機会を設けて補修プリントなどをもとに再度全体指導による復習を実施する。 ・今後は、実験の結果等を正確にノートにまとめ、それを確認するなどの活動を通して、知識の確実な定着を図っていく。
生命・地球	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると3.7ポイント低く、県平均と比較すると2.1ポイント低い。 ○「季節と生物」に関する設問の平均正答率は73.10%で、市平均と比較すると0.8ポイント低く、県平均と比較すると3.6ポイント高い。 ●「太陽と地面の様子」に関する設問の平均正答率は74.4%で、市平均と比較すると5.3ポイント低く、県平均と比較すると4.5ポイント低い。中でも「太陽の動きから地面に立てた棒の影の動き方が分かる」かどうかを問う設問の正答率が74.4%で、市平均と比較すると5.3ポイント低く、県平均と比較すると4.5ポイント低い。	・左記の「太陽の動きから地面に立てた棒の影の動き方が分かる」かどうかを問う設問に関してはC-D層の差が大きいため、該当児童に対する基礎的な知識を改めて復習できる機会を設ける。 ・今後は、実際に観察したり操作したりする活動の機会をより多く取り入れることで、実体験を通して知識の定着を図っていく。また、グループ学習をするときなどは、意図的にD層児童の活動の機会を増やすことができるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。」と回答した児童の割合は82.1%と8割を超えており、これは昨年度4年生だったときと比べて24.6ポイントも高く、一人一人の良さを認め合い自己肯定感を高める日常の学級経営の成果が現れている。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」と回答した児童の割合は84.6%と8割を超えており、これは市の平均と比べて13.8ポイント高い、また「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」は、94.9%で市の平均よりも8.8ポイント高い。家族からの肯定的なアドバイスが、前向きに学習に取り組もうとする意欲につながっていると考えられる。

●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合は48.7%と5割未満で、市の平均と比べて15.0ポイント低い、また、「家で、学校の授業の復習をしている」は、53.8%で、市の平均と比べて8.3ポイント低くこの質問に対するA-D層(学力層別割合)の差は80.0ポイントと調査項目の中で最大である。このことから、学力と家庭での学習習慣の関係が密接であることが伺え、一部に学校と塾の宿題が中心で、自主的な学習習慣が十分に身に付いていない様子が見られる。今後は、宿題の量や質を吟味しつつさらに家庭と連携を図りながら、自主的な家庭学習の習慣化が図れるよう指導していきたい。

●家庭学習の時間について、河内学校園で目安とする1時間以上取り組んでいる児童の割合は、平日は25.7%、休日は36.9%といずれも4割にも達しておらず、全くしないと答えた児童も平日は2.6%、休日は23.1%であった。一方で、平日テレビを見ている時間が3時間以上と答えた児童の割合は41.1%にものぼるため、家庭での過ごし方やマナーについて見直しが図れるよう、学年便りや懇談会などを利用して各家庭に呼びかけていきたい。

宇都宮市立岡本小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT機器の授業への活用を中心とした、児童の表現力の育成	校内研修でICTを活用した学び合いの活性化を研究すると同時に、学校全体で効果のあった取り組みについて情報交換を行い、自分の授業に活用できるようにしている。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に肯定的に回答した5年生児童の割合が、昨年4年生だったときと比較して12.2ポイント増加しており、今年度の4年生も市の平均を上回っている。
授業のねらいに対する振り返りの充実	授業の始めに本時のねらいを明確に示して児童一人一人に意識させると共に、授業の最後に振り返りの時間を確保し、分かったことと感想や気付き疑問などを書かせ、次時の学習へとつなげている。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した5年生児童の割合が、昨年4年生だったときと比較して12.5ポイント増加して70%近くになっているが、4年生は50%である。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学校園で共通の手引き「自主学習のヒント集」を作成し、日常の児童への指導に利用すると共に、保護者の意識を高めるための資料として、懇談会等でも取り上げている。	自主的な家庭学習に関わる「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、昨年度の4年生と比較して4、5年とも10パーセント近く増加しているが、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、50%未満である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容